

日本の色 赤紫：赤みを帯びた紫色。かつては濃紫の次に高貴な色とされた。仏教のシンボルとして描かれる蓮の花を思わせる色。

お盆の飾りつけ

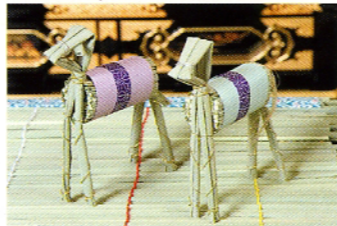
昔は仏壇の前に盆棚を作り、位牌を置き、供え物をした。最近では仏壇のある家すら珍しくなってしまった。簡略化された飾りでも、先祖の魂をきちんと迎えたい。

仏壇：以前は仏壇の前に浄土と同じ空間として盆棚を作り、位牌や霊前灯、供え物などを置いた。仏壇に霊供膳を置いてよい。

提灯：ご先祖様が迷うことなく家へ帰ってこられるように、その目印として提灯に火をとます。軒先に下げるものや天井からつるすものもある。



供え物：ほおずき、昆布、そうめんや季節の野菜などをお供えする。故人の好きだった食べ物をお供えするのよい。



馬と牛：本来はキュウリで馬を、ナスで牛を作り、ご先祖様の乗り物としてお供えする。家に戻る時は馬で速く、浄土に帰る時は牛でゆっくり、という願いが込められている。迎える時は仏壇に向け、送る時は外側に向ける。

text by 渡辺幸裕 (案内人) + photograph by 木村 輝

家族とともに、命の尊さについて考える

先祖の魂を供養する

「盆と正月」と昔から言うように、これらは日本の二天行事。正月休み盆休みと、企業も長く休みを取る。正月同様お盆も、単なるパカンスではなく、日本人の精神構造に深く関わる行事である。お仏壇・お墓のはせがわ銀座本店店長の荒牧譲二氏に、お盆に関する基本的な話を聞いた。

インドで始まり中国経由で聖徳太子の時代に伝来した仏教は、日本古来の神道と「神仏習合」して発展を遂げ、独自の信仰心を作り出した。人は亡くなると仏様の弟子になり、毎年お盆の時期になると我々子孫の元に帰ってきてくれる。宗派や地域によって風習や時期も異なるが、その先祖を供養するのがお盆である。

迷わず家に戻れるように迎え火をたき、提灯をともし、霊魂の乗り物として馬や牛を作り、故人の好きだった物を供える。何とも信心深い、そしておもてなしの心のこもった行事ではないだろうか。盆踊りも先祖の魂を慰め、これを送るための踊りだったという説



Joji Aramaki

荒牧譲二氏  
1953年福岡県生まれ。2003年お仏壇・お墓のはせがわ銀座本店店長に就任。  
お仏壇・お墓のはせがわ  
銀座本店：住所・東京都中央区銀座1-7-6  
銀座河合ビル  
電話・03-5524-7576  
フリーダイヤル・0120-58-7676

連載第二十三回 お盆の過ごし方  
先祖を供養する催事

真の国際化とは自分の国を知ること。先祖の魂を家に迎え入れ、供養する「お盆」を通して、日本人の信仰について考えたい。



お盆の由来

仏教行事と日本の御霊祭りが融合して生まれたもの。お盆の由来を知れば、その過ごし方もまた違って来るだろう。先祖の魂を迎え、命の尊さについて思いを馳せる。

**盂蘭盆会**：お盆の正式名称は盂蘭盆会(うらばんえ)と言う。元は仏教の行事であり、盂蘭盆会とは、インドのサンスクリット語のウランバナ(逆さ吊り)を漢字で音写したもの。

**7月15日**：その昔、お釈迦様の弟子の一人で神通力のあった目連尊者(もくれんそんじゃ)は、亡き母が餓鬼道(地獄の1つ上の世界)に落ち、逆さ吊りにされて苦しんでいることを知った。お釈迦様の助言通り、7月15日に僧侶を招き、多くの供物を捧げて供養したところ、その功德によって母親は極楽往生が遂げられた。それ以来、この日が、父母や先祖に感謝を捧げ、供養を積む日となった。

準備と過ごし方

都市部では7月に、地方では8月に行われるお盆。準備も過ごし方も風習によって異なるが、ここでは基本的な準備と過ごし方を紹介する。(7月お盆の場合)

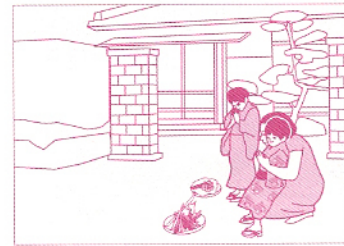
**6月上旬**：お寺へお参りの依頼をしたり、盆棚・提灯・新盆見舞い者へのお返し注文をする。

**7月上旬**：盆棚・提灯の組み立てと飾りつけ。お墓・お仏壇の掃除など。飾りつけは遅くとも13日の午前中までに終わらせる。

**7月13日**：迎え火をとます。盆提灯に灯をともし、玄関先か門口でオガラで火をたき、先祖の霊を迎える。

**7月13日～15日**：お寺参り。法要を営む。

**7月16日**：送り火をとます。オガラや新盆の提灯を焼いて、霊を送り出す。



**迎え火・送り火**：先祖の霊が迷わずに家へ戻ってこられるように、そして迷わず浄土へ帰れるように、その目印として火をたく。提灯をその代わりとする所も多い。

さらに深める参考情報...

【書籍】

『日本人の「仏教のしきたり」ものしり辞典』(ひろさちや著、大和出版)  
『仏音と日本人』(高瀬広居著、PHP研究所)  
『どこが違う? お仏壇』(鎌倉新書)

【ウェブサイト】

お仏壇・お墓のはせがわ  
<http://www.kuyou.com/>  
お盆のこんな話してる?  
<http://www.choutin.com/obon/>  
葬儀情報局  
<http://sogi-iso.jp/>  
会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ  
<http://www.japanknowledge.com/>

— お盆を過ごす装い —

苧麻(チョマ)から取った糸で織り上げた麻の八重山上布に、宮古上布の帯を合わせて涼しげな装いに。(石原英子さん=読者、ライター)



雪でさらして漂白し、上品に仕上げた麻の越後上布をコーディネート。(渡辺幸裕)

着物撮影協力/銀座もとじ

**案内人・文** 渡辺幸裕(わたなべゆきひろ) ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

がある。それがやがて、皆が集まるからと祭りの色彩が強くなり、商業利用要素が増え、現在の形になった。炭坑節や東京音頭も盆踊りによく聞かれるが、元は先祖供養であるお盆の精神と、深く結びついている。

信仰に基づく行事

お盆は、ご先祖様を迎え供養するとともに、過去から連なる命の積み重ねの上に今の自分があることに思いを馳せる良い機会だ。自分が存在しているのは両親、祖父母、そして先祖のおかげである。例えば10代さかのぼると合わせて2046人の先祖がいる計算

になる。その1人でもいなければ、今の自分はいない。どのような形式でお盆を行うか、それは各人が判断すべきことだが、先祖を敬いその魂を供養するという本質を大事にしたい。

あなたの宗教は?と聞かれて無宗教と答える日本人が増えていく一方、これだけ手を合わせる機会が多い国民もないと聞かれている。外国の方が仏壇の使われ方を知ると「日本人は皆ホームチャーチを持っていて。何と信仰心のあつい国民なのだ」と驚くそう。ご先祖様や亡くなった方を敬う日本人の信仰心を、お盆を通して考えてみたい。

【告知】

日本かぶれの会  
日本かぶれ1周年記念

おかげさまで本連載も次号で1周年を迎えます。そこで、日頃の感謝を込めて、1周年記念の懇親会を行いたいと思います。簡単ではありますが、お食事もご用意する予定です。詳しくは次号の日本かぶれ告知をご覧ください。